

国際交流の取り組み



“2020年の科学・技術の姿”日仏ジョイントフォーラム開催

2007年2月、フランスのリヨンで日仏ジョイントフォーラムが開催された。東北大学創立100周年と、東北大学の大学間交流協定校であり、ダブルディグリープログラムの協定も結んでいる、フランス国立中央理工科学学校リヨン校の150周年、国立応用科学学院リヨン校の創立50周年を記念しての事業である。欧州委員

会副大統領ジャック・バロー氏をはじめ、フランス各地から高等教育・研究機関、財政会、商工会議所、日仏の研究者や仙台市などの自治体、企業関係者ら延べ300人以上が参加し、運輸、材料、エネルギーをテーマに10年後の科学技術について意見を交わした。

大学間学術交流協定締結校 新規に9校と締結

スウェーデン	チャルマース工科大学	2006. 4.19
ドイツ	ドレスデン工科大学	2006. 6.26
中国	西安交通大学	2006. 8.31
フランス	アルピ鉱山大学	2006. 9.12
中国	華東師範大学	2006. 9.20
カナダ	ウォータールー大学	2006. 10.30
インドネシア	ガジャマダ大学	2006. 12.16
中国	北京航空航天大学	2006. 12.16
韓国	西江大学校	2007. 2. 2

2007年3月31日現在で、大学間学術交流協定校は合計で25ヶ国・地域、118機関となった。

海外インターンシップの推進

国際的な視野を持ち、将来国際プロジェクトマネージャとして活躍できる人材を育成するため短期間海外に学生を派遣。海外研究機関にて現地の研究プロジェクトに直接参画する。



東北大学100周年記念「知の世紀」グローバル・サミット

2007年3月、東北大学の創立100周年を記念して「『知の世紀』グローバル・サミット—挑戦・創造・革新が次代を切り拓く—」を読売新聞社と共催で開催。海外5大学の学長や2002年ノーベル化学賞受賞者である東北大学工学部卒業の田中耕一氏など、学界、産業界、政・官界の世界的なリーダーが、今世紀の社会のあり方や大学のビジョン、課題、役割などについて、それぞれの見解を述べた。



(前列左より)尾身財務大臣、井上東北大学総長、吉川産業技術総合研究所理事長

中国校友会設立

2006.12.16設立

東北大学との繋がりを良好にし、本学の発展に貢献していく。留学希望者への援助、中国での広報活動協力などを推進する。



米国代表事務所開所

2006.5.24開所



東北大学の研究・教育成果の展開などをとおして世界的プレゼンスを高め、大学の成果の社会還元を円滑に国際的に広げる。

Topics

Natureで「仙台特集」

2006年8月、英国科学雑誌「Nature」で仙台特集が組まれた。東北大学は、仙台市と共同で「Spotlight on Sendai(仙台スポットライト)」と題し、広告記事を掲載した。

仙台市は、緑豊かな自然、都市の快適さ、文化・文明を創出する知性によって織りなされるエリアとしてアピール。東北大学は国際社会に門戸を開くスタンスや特性、ビジョン、教授陣の研究などを紹介した。



Nature Vol.442 no.7103, 10 August 2006